

5つの卒業式に思う

大塚朝美

教員にとって年度末である3月は1年の締めくくりの月である。本学では大学院、大学、短期大学の卒業式を開催しており、その3つの卒業式に加えて今年の筆者は二人の息子が高校、小学校を卒業するため、合計5つの卒業式に出席することになる。

卒業式の流れや式次第に含まれる項目はどの卒業式も大差はなく、卒業証書授与、学長や校長からの祝辞、来賓の祝辞、優秀者の表彰、送辞、答辞、校歌斉唱などである。それらに加えて、保育園や幼稚園の卒園式や小学校の卒業式では子供たちに将来の目標や次に進む学校でどんなことを頑張ろうと思っているかなど一言発表させる場面があったり、大学ではゲストを招いて歌や楽器のパフォーマンスを取り入れることもある。その中で一番興味を持って耳を傾けるのは、やはり卒業生の答辞や卒業生代表のスピーチである。長男の高校の卒業式では、答辞として代表の生徒がその学年が在学中に経験した行事などをざっと振り返ってエピソードを披露し、親側はその時にあった出来事を思い出し、涙することもあった。同じく、教員にとっても生徒と共に過ごした時間を思い出し、感慨深く聞き入る時間となるだろう。大学の卒業生スピーチからは、大学の4年間、短期大学の2年間でそれぞれ学生がどのような思いで大学生活を過ごしていたのかを垣間見ることができ、卒業式という晴れの舞台でこれからの自分を思い描き、希望に満ちた未来への一歩を踏み出す際の宣言にも聞こえる。学校という教育機関では毎年ほぼ同じ行事が同じ時期に同じように繰り返されるが、卒業式はそれぞれの学校課程の締めくくりとして最も大切なセレモニーである。生徒や学生ひとりひとりの思いとそこで過ごした数年間を振り返ると同時に、自分の過ごした3年や4年の月日も改めて振り返る良い機会とし、次へ進むために気持ちをリセットするきっかけにもなるのが卒業式である。もちろん主役は生徒・学生たちであるが、それ以外の色々な立場で出席している我々にとってもひとつの区切りとして卒業式をとらえることができるのではないだろうか。

学校現場では卒業生を送り出したあと、一ヶ月も経たないうちに今度は新しく希望を胸に抱いた新入生たちを迎える。自らにとってもまた新たな気持ちでスタートできる新年度を迎えられることに感謝をしたい。

(大塚朝美 専任講師／教員養成センター)